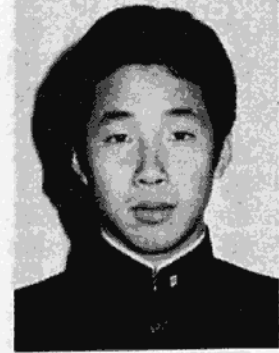


新しい理科教育を… 日光小で公開研究発表会



東中の齋藤君

「母を語る」で熱弁



齋藤君

全国に先がけ、初の試みとして、県、県青少年育成県民会議などが主催した「第一回県少年の主張コンクール」が、十一月二十八日、宇都宮市旭中学校体育館で開かれました。この大会では、県内八地区から予選を通った二人づつの代表十六人が発表しましたが、上都賀地区は、二十七人で予選を行い、東中学校三年の齋藤三千男君が、見事代表に選ばれ「母を語る」の演題で発表、出席した大人たちを感動させました。

よい歯の優良学校

県歯科医師会と栃木新聞社主催の「よい歯の優良学校コンクール」に、県下の小学校二百一校、中学校七十四校が参加。日光中学校と中宮祠中学校が、中学校の部「入選」十一校の中に選ばれました。

日光市史のあらまし

上巻

(考古) 和泉、男体山頂遺跡のほか、新たに確認された多数の遺跡を収録、原始から古代・中世にまたがる物質文化の変遷をたどる。とくに、これまで知られていなかった弥生文化の波及と、男体山など日光連山の山頂遺跡を紹介。

(古代) 勝道上人についての巷説を整理し、確実な史料をもとに記述。勝道上人の碑文にまつわる話や、二荒山は、日光が宇都宮かの問題も史料を整理。

(中世) 日光山は、鎌倉時代、光明院を中心に、関東の比叡山として勢威を誇る。室町時代は実権が座禅院の権別当に移り、慶長年間まで続く。山内の繁栄ぶりをうかがいつつ、少ない史料から確実なもので、日光山の推移を追う。

中巻

(近世) 徳川家康が、東照大権現として祀られた日光の近世。幕府は、東照社(東照宮)を創

建、あわせて二万五千石余の社領が寄進される。將軍、諸大名、例幣使が参詣するための杉並木街道の設置。日光は、東照社の門前町として発展、町民の生活にも江戸の影響が見受けられる。一方、中世以来の修験の霊地としての伝統も強く息吹き、幕末には、二宮尊徳の「報徳仕法」による殖産奨励も試みられる。

下巻

(近現代) 明治維新、戊辰戦争、廃仏毀釈事件などと、日光との関係。その後の国際的に著名な観光地となっていく過程での変化が、叙述の重点。同時に、日本の近代社会がたどった共通の問題、例えば、地方自治制の推移や近代産業の導入、社会問題など、将来の「日光像」を考える資料が多い。

(民俗) 一般庶民の生活史の一端を、衣食住、信仰、祭り、芸能、民話などに分類、やさしい解説で、埋もれた庶民の文化遺産を発掘紹介する。

昭和四十五年一月号から、足かけ十年間にわたり連載しました「市史編さん室だより」は、前月号で、シリーズ「明治からのあゆみ」の完結に引き続き、今月号一〇七回をもって終了いたします。永らくのご愛読ありがとうございました。

文部省の学習指導要領の改訂にともなう、理科の学習方法を研究するための「理科研究指定校」が、日光小学校はじめ、全国で三校、昨年とことしの二年間指定を受けていました。十二月七日、その公開研究発表会が同校で開かれました。

日光小での公開研究発表会
使った新しい授業が行われ、生徒たちは、多勢の先生方の熱心な視線を受けて、多少緊張さみでしたが、集まった先生方は、写真やメモを取るなど、熱のこもった授業見学でした。その後、分科会で討議のあと、文部省の奥井講師の講演を聞くなど活気にあふれた研究発表会でした。

「新しい理科教育めざして」をテーマとするこの発表会には、全国から、理科担当の先生方三百人が集まり、全体会議のあと、数教室で同時に行われた「研究授業」を、熱心に見学しました。各教室では、さまざまな実験器具などを

